

第9回南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会議事録

日時 令和5年7月25日 午後3時から午後5時

場所 南魚沼市民会館 多目的ホール

参加 委員 15名
事務局 5名

議事

- ①前回の検討委員会のまとめ（資料1・資料2）
- ②大和地区小学校の適正配置について
- ③その他

1. 開会（学校教育課長）15:00～
2. 挨拶（教育長）（塩川委員長）
3. 傍聴希望者について（許可）
4. 議事

課長 資料1、資料2について説明。

委員長 参考資料について、今までの統合での状況と、今回の6校統合を行った場合の見込みが示されました。学校現場に詳しい校長先生方から、ご意見をいただきたいと思えます。

副委員長 参考資料にある教員一人当たりの受持児童数ですが、この数をそのまま受け取らないでいただきたいと思えます。教員数の中には校長、教頭、養護教諭が含まれており、これらは一般的には授業を受け持つことはありません。また、特別支援学級の先生方も含まれていますが、特別支援学級は上限の人数が決まっています、それ以上の子どもたちを受け持つことはありません。統合小学校の教員一人当たりの受持児童数が約20人ですが、実際はもっと多いです。2校が統合するというのは色々な地域がありますが、複数の学校が一気に統合することなので、最初は混乱が予想されます。メリット・デメリットをしっかりと分かったうえで、地域からも議論いただかないと思いません。

委員 統合の学校はマンパワーが足りないと思えます。私は1000人の学校に勤めたことがあります、当時級外が20名くらいいました。今はシステムが変わり、確保が難しいかもしれませんが、加配で担任を持たない教員を増やしていただきながら、負担を減

らしていく必要があると思います。

委員 教員一人当たりの受持児童数を出していただき、大きい学校になるとどうなるかが分かりやすくありがたいです。大きな学校になると子どもたちも問題も増えるので、若い先生方がメンタル面で負担を抱えることが増えます。若い職員が多いということは産休等で休む職員も多いので、昔と違って代わりの職員を配置できないということもあります。あんまり大きな学校ができてしまうと、いろんな面で負担が大きくて大変だと思っています。

委員 八海中学校は3つの学校が一緒になって、最初の頃は苦労したという話を聞いています。給食一つでもそれぞれの学校のやり方がありますし、新しい学校ができるということは新しい文化を作っていくということなので、職員も生徒も戸惑いながらやっていくことになります。これだけ多くの学校が一つになるということは、困惑されるかなというのが正直なところですよ。

委員長 資料1及び資料2について、今ほどいただいた校長先生のご意見なども踏まえ、ご質問やご意見などあればお願いします。

委員 大きな統合があった時に激変緩和として、数年間は多めに配置するというような制度はないのでしょうか。

教育長 石打小学校、上関小学校の統合では県が1名の教員を2年間配置しました。激変緩和といっても、その程度であるということです。市が一時的に補助員を配置することはできるかもしれませんが、あくまでも補助員なので教員を配置することは不可能です。

関課長 統合の際には校務員を2名配置しております。そのほかにスクールサポートスタッフを配置するような対応もしておりますが、市として複数名配置することは難しい状況です。

委員 県教委に対して魚沼枠を増やすように要望することは可能でしょうか。

教育長 魚沼枠を特別に増やすということではなく、これからも継続して確保していくということですよ。

委員長 それでは議事②大和地区小学校の適正配置についてに入ります。資料2にありますとおり、仮で決定した適正規模、12学級から18学級の学校を前提に、適正配置を検討してきました。しかしながら、南魚沼地域の教員確保が難しい実情など、当初想定を

していない状況も分かってまいりました。

まず、仮で決定した適正規模について、過去3回の検討委員会での議論なども考慮して、見直す必要があるのか、検討したいと思います。委員全員からご意見を伺いたいと思います。

委員 前回に続いて先生方からデメリットに関するお話がありましたし、それらを踏まえて子どもたちや父兄に対しても難しいという話をいただきました。しかしながら、どこかで統合を目標に掲げないといけないと思っています。何年ごとがいいかというのは、現場の意見を反映していくべきだと思っています。三用小学校、赤石小学校については、同じ東地域ということで保護者の同意も得られて、数年は前に出られるのではないかと思います。

委員 資料2にあるように、子ども・地域・教育現場にとってより良い教育環境とはということを目的に検討委員会は招集されています。1学年2クラスもしくは3クラスというのは維持すべきと考えています。議会の総務文教委員会で愛知県瀬戸市にある「にじの丘学園」に視察に行ってきました。約13万人の市ですが、少子化が進んだことで中学校2校と小学校5校の計7校を施設一体型の小中一貫校に編成しました。やはり一番は保護者の意見を尊重するというので、新しい学校を作るうえで反対はなかったといいます。人口の多いところでも再編が進んでいますので、教員確保困難地域という要因もありますが、やはり将来的に、ある程度の数を確保できるような最低ラインを答申案として出すべきだと考えております。

委員 最初、複式学級を避けたいというところから議論が始まったと思います。議論を重ねる中で、ある程度は大和地区1校で進むのかなと思いましたが、前回から現場の先生方から意見を伺って随分変わったなという気がしています。前回も申し上げましたが、現場の先生方が困るようなことではだめだと思います。せっかく学力の優れた子どもたちを育てても、よそへ行ってしまえば困りますので、基本的な教育のスタンスをお聞きできればと思います。

委員 何年後かにまた統合の議論を始めなければいけないとなると、先生方にとって非常に負担になると思います。答申としては1校にまとめるということを出すべきだと思いますし、出た答申に対して具体化できるかというのは別の問題だと思います。教員確保困難地域の中で、6つの学校が統合すれば40人の教員が外れてくるわけですが、こうやって頑張っているところに国や県はなぜ配置してくれないのかというのを、どんどん上へあげていかないといけないと思います。答申は答申として出して、そのあとの困難な部分をどうやって解消していくかは、答申を受けた側の判断だと思いますので、諮問を受けた側の答申としては、理想形を出すべきだと思います。

委員 なんといっても地域や保護者の考え方があって適正規模や適正配置が決まってくと
思います。基本的な答申はこれでいいと思いますが、地域に下げて、地域で話し合っ
ていただくのが最も大事だと思っています。

委員 前回の検討委員会から私なりに保護者の意見を聞いてみました。大和地区の小学校が
一気に統合するという点に関して、三用小学校や赤石小学校のような1学年10人
前後の学年が多い中で、一気に統合となるとメリットよりもデメリットの方が大きく、
それを心配する保護者が多かったです。6校を一気に統合するよりも、段階的に統合
するほうが子どもたちにとっても先生方にとってもストレスが少なく済むと思いま
す。

委員 皆さんの話を聞いていて、非常に難しい問題だと痛感しています。統合に向けて話を
進める中で、先生方の負担をこれ以上増やさないという点においても、将来的に6校
の統合を目標に進めていくのはいいと思います。しかし、課題が浮き彫りになってい
る中で、段階的に進めていく方がいいと思いました。

委員 校長先生方の話を聞いて、最終的に1校に統合するのはいいと思いますが、一気に統
合というのは難しい気がしました。段階的に統合となると、統合の回数が多くなれば
先生方の負担は増えますが、地域の意見を聞く時間もできますし納得していただける
と思います。また、人数が増えれば合わない子もいるので後山小学校をどんな形にす
るのかということも検討していただければと思います。

委員 日本全体で少子化が進んでいてどの地域も苦勞されていると思います。今後の推計も
出ていますが、それ以上に少子化が進む可能性の方が高いと思っていますので、統合
は必要だと思います。統合も何回も続くのは大変なことなので、大和地区6校を1校
にする方向で進めていくのがいいと思います。塩沢地区も少子化で合併が必要になっ
てくるので、今後の参考にするためにも大和地区についてしっかり決めていく必要が
あると思います。

委員 大和中学校のコミュニティスクールに参加させていただいて、学力の低下が話題に上
がりました。メディアとの付き合い方によって低下する勉強時間を、中学生から身に
つけるのは難しいところがあると思います。小学校のうちから身につけるためにも、
6校が1校にまとまるよりそれぞれの学校で子どもに合わせて決まりを身につけさせ
るほうが、将来的な学力向上のためにいいと思いました。適正規模については仮で決
まっていますが、地域や保護者の意見を聞きながら、必ずしも統合に向かっていくの
ではなく、存続することも選択肢として残していただけるとありがたいです。

委員 最終的には統合するしかないと思っていますが、何回も統合となると非常に大変だと

思います。これだけ広い地域なので、後山の子どもでも大きい学校を希望すればいけるし年度途中でも大きい学校に戻りたければ戻れるというように、選択肢を残していただけるといいと思います。

委員 学校生活の中で大事なものは社会性を育むことなので、複式学級よりは大きいクラスの方がいいと思います。理想は1クラス20人くらいで、クラス替えもあった方がいいと思います。一番優先すべきことは、南魚の実態ですので、学校が荒れたり、不登校が増えたり、いじめが起きたり、学級担任が休んで校長や教頭が授業に出たりすることになると本末転倒です。子どもたちが安心して学校に来て、事件事故がなく、普通に帰っていける状況に置いてあげたいと思います。それを考えると大きすぎる学校は難しいと思うので、南魚の実態を一番考えていかなければならないと思います。

委員 検討委員会については、子どもの教育を考えた上での委員会の持ち方になっていると思います。大和地区の統合については大きすぎるので、段階的な統合を進めていただくのがいいと思います。適正規模については従来通りの方針を進めていただければと思います。

副委員長 答申としての適正規模の考え方ですが、12～18学級というのはいいいと思います。ただし、18学級になるとかなり厳しいので、1～6年生2学級ずつ12学級になるような形がいいと思います。将来的に大和地区で1校という目標はいいと思いますが、一気に6校が一緒になると混乱が予想されますので、段階的に進めていただけるとありがたいです。吸収合併であると、吸収される学校は座り心地が悪いかもしれませんが、校歌や校旗も変えなくていいので負担はかなり軽減されると思います。地域の皆さんからすると心持ちは嬉しくないのかもしれませんが、そこをどう地域と対話して作っていくかは今後の問題だと思います。

委員長 ありがとうございます。この春まで浦佐小の校長だった小島管理指導主事から意見をお聞かせいただけたらと思います。

管理 浦佐小学校の現状をお話しさせていただけたらと思います。浦佐小学校は1年生から6年生まで10クラスと特別支援学級が4クラス、その他に外国籍の子どもが1つの教室で日本語の勉強をしています。また、通級指導教室が1クラスあるので、空き教室は0.5しかなく、その部屋をクールダウンや個別指導の部屋として使用しています。4年生と6年生が1学級ですが、4年生が2学級になるかもしれないとなった時に教室が足りないので、プレハブを建てることも検討していました。今の校舎を合併後も使用することは難しいと思います。

委員長 委員の皆さんから多くの検討をいただきました。委員の皆様の意見は、概ね仮の適正

規模のままであったと思います。適正規模については、仮決定した規模とすることによってよろしいでしょうか。

(賛成者多数)

委員長 それでは、適正規模については、仮の 12 学級から 18 学級とすることと決定しました。ここで休憩とします。再開は 16 時 10 分とします。

委員長 休憩を閉じ、会議を再開します。先ほど協議した適正規模に基づき、大和地区小学校の適正配置を改めて協議します。段階的な統合を目指すのであれば、まず直近で生じる三用小の複式学級の発生をどうするのか、赤石小の複式も見えているので、その対応を検討することが第一です。その次に、藪神小・大崎小の統合時期を検討するようになります。後山小については、特認校として地域に残す検討を行う一方、統合小への入学を許可する方策も検討が必要です。委員の皆さんから意見がありましたらお願いいたします。

委員 資料にあるように、浦佐小は全校 268 名の教員数 23 名ですが、統合小学校になった時に全校 535 名で教員 27 名、1 年生から 6 年生まで 3 学級になります。この体制で南魚沼市において教育を行うことは困難なのかお聞かせいただきたいと思います。愛知県瀬戸市は教室も廊下もとても広く作られていました。今の浦佐小の校舎に 1 クラス 30 人から 40 人を入れるのは困難だと思いますが、新校舎を建設するのであれば、学校自体大きくなるので余裕のある教室ができると思います。

教育長 全校数 535 名を教員 27 名で指導するのは、数字を見ただけでいかに困難かということが想像できます。1 人の校長先生がこれだけの児童数の学校運営をするとすると極めて困難な状況に置かれると思います。愛知県瀬戸市のお話をされましたが、先進地と南魚沼市で大きく違うところは教員確保です。教員確保困難地域は 3 年サイクルで先生が変わってしまい、地元に残りません。具体的に学校現場での困難さについては校長先生方からお話していただければと思います。

副委員長 建物ではなく、人です。特に小学校では人との交流がとても大事になってきますので、建物の広さ以上に担任の先生とクラスの仲間とどう過ごすかが重要です。1 年生の時に赴任してきた先生は 4 年生になるといなくなるので、6 年間その子たちをみている先生はほぼいません。いくら魚沼枠があってもその枠だけで賄いきるのは困難です。落ち着いた学校運営を行う上で、急激な人数の増加は非常に難しいところがあると思います。6 校が 1 校になると給食の準備や運動会など 6 校がすべて違うので、それをどう一つにまとめるか議論しなくてはならないことがたくさんあります。そういった激変の中で教員が増えるわけでもなく、子どもたちを指導していくとなると先生方は

寝不足の状態が続いていくのが目に浮かびます。そうならないために加配は2年間で1人つけてもらえますが、その1人でその状況を打破することはできませんので、急激な増加は難しいと感じています。将来的に大和で1校にすることは賛成ですが、倍増する子どもの人数とほとんど増えない先生方の人数を見た時に背筋が寒くなる想いしかありません。

委員 小学校は学級担任制で中学校は教科担任制ですが、小学校も教科担任制になっていくと思います。そうすると、統合小学校の教員数27名というのは令和11年になる前に大幅な変更が出てくるのではないかと思います。今現在わかっていることがあれば教えていただきたいです。

副委員長 全国的に教員の確保が難しい中で教員の人数を増やすことは難しいと思いますので、教科担任制が急激に進むとは思えません。今現在、学年を追うごとに35人編成にしている最中なので、それに加えて教科担任制にする余力はないですし、令和11年度までに整備するのは難しいと思います。30人以下学級の署名が始まったのは今から20年以上前で、40人から35人にするのに30年以上の年月を経ています。文科省は教科担任制になった時の配置例を示していませんし、今ある制度の中で答申を考えるしかないと思います。

委員 将来的に6校を1校にするという目標を掲げて、英知を出し合って準備していくということが大事だと思います。負担軽減という面では、三用小と赤石小の場合は吸収合併という方法もあると思っています。先ほどから教員確保が難しいという話がありますが、20年以上前から言われていることなので、どこかで手を打たないといつまでたっても抜けられないと思います。独自の教員確保や教員になるための方策を強引にでもやっていただけないかと思っています。

教育長 教員確保は以前から言われていますが、実際には近年極めて教員確保の状況が厳しくなっています。一方で、南魚沼市が色々な面で新しいチャレンジをして市のイメージがあがっています。子どもたちがこの地域に誇りを持って生活できるための教育をしていくために、各小中学校でも行われているキャリア教育を中心に、子どもたちの夢を育てていく必要があると思います。魚沼地域全体で教員確保が難しいところで、他の自治体や県と協力しながら努力していきたいと思っています。

委員 先生方は県が採用する訳ですが、県が異動を命じた時に、拒否できるのでしょうか。

教育長 県内どこでも行くのは新採用と2校目の先生が中心で、それ以降はライフステージに合わせて希望地域が出てくるので、それに合わせて人事が行われています。

- 委員 新しい学校を作り、6校はそれぞれ分校のような形で残して段階的に一緒になっていけば、校歌や校旗は一回決めればいいのではないのでしょうか。統合することを決めて、それに向かっていくにはどうしたらいいかという考え方をしていかないとなかなか進まないと思います。
- 教育長 段階的という表現を多くの方が使われていますが、具体的なイメージをお聞かせいただけると次の手順が見えてくるとと思いますので、ご発言をお願いします。
- 委員 塩沢も六日町も今の適正規模に見合わない学校が出てくるので、南魚沼市全体のことを考えなければならないと思います。
- 教育長 委員の皆さんが使っている段階的という意味をお互いに共有していただけたらと思います。
- 委員 新校舎が早く令和12年ということで、以前事務局から示された配置(案)のように、まず三用小・赤石小、その次に大崎小・藪神小というふうに捉えています。
- 委員 1校に統合するというのが前提にある上で、教員確保については私たちが入り込めないところなので、そういった点については実務の方たちに可能な人数などを示していただくのがいいと思います。
- 副委員長 新校舎の完成と同時に合併というのも一つの段階だと思います。また、以前藪神は大巻村だったからそこをくっつけるのもありじゃないかという意見が出ましたが、市内全体を見た時にそういった点も検討材料になると思います。
- 教育長 藪神の場合は、中学校区が変わることになりますが、将来的にはそこも含めて再編が必要であるということでしょうか。
- 委員 私の認識では、五日町が南藪神村で、今の藪神が北藪神村でした。どちらかという五日町が昭和31年の合併の時に大和にくっつくかという議論があったと思います。以前、水尾は八海中学校区がいいのではないかという意見がありましたが、今の段階では旧町の枠を超えない形でいいと思います。
- 委員長 大和地区小学校の適正配置については、段階的な統合を目指すのがいいというご意見が多かったと思われます。まずは三用小・赤石小、続いて大崎小・藪神小の統合スケジュールについて、次回の会議で事務局より示してもらい、承認したいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員長 では、次回の会議において事務局から示していただくことにします。

委員長 続いて、③その他について、委員の皆さまから何かございませんでしょうか。

委員 最も大切なのは子どもたちの教育環境でありますので、より良い教育環境についても一度議論し、明確にさせていただいて、それに沿って再編していくのが大事だと思っています。私は大人数の中で切磋琢磨していくことが一番優先されることと思っていますので、次回はしっかりと議論できる場を設けていただきたいと思っています。

5. 次回の開催予定：9月1日（金）

6. 閉会

午後5時00分終了